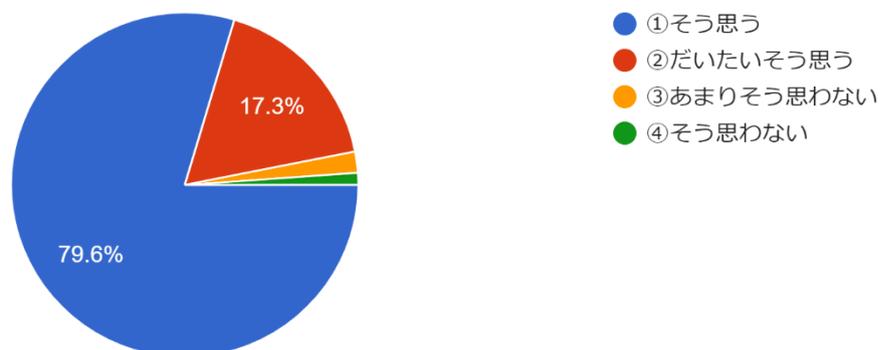
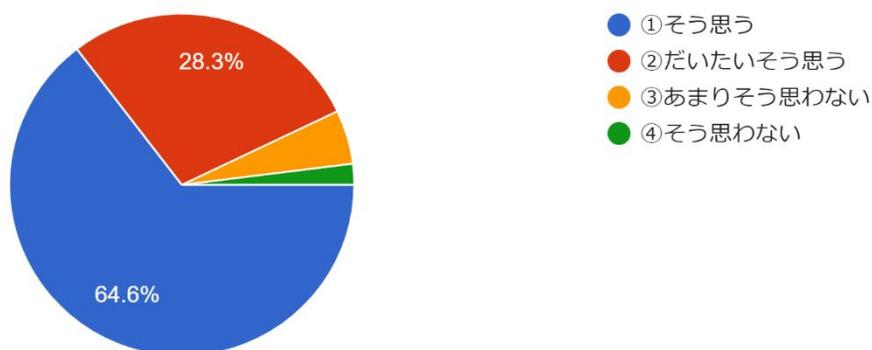


## 児童「学校生活アンケート」集計結果および考察

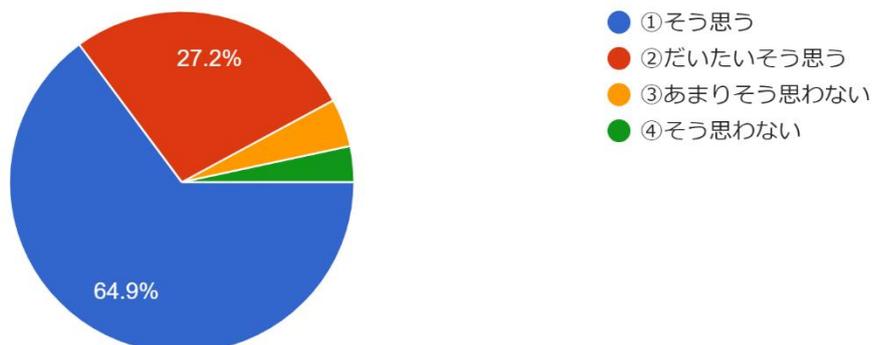
1. 学校行事は楽しい。やってよかったと思う。...学習、スポーツデー、わくわくコンサートなど)  
353件の回答



2. クラスでは安心して勉強したり、楽しく友だちと話したりできる。  
353件の回答

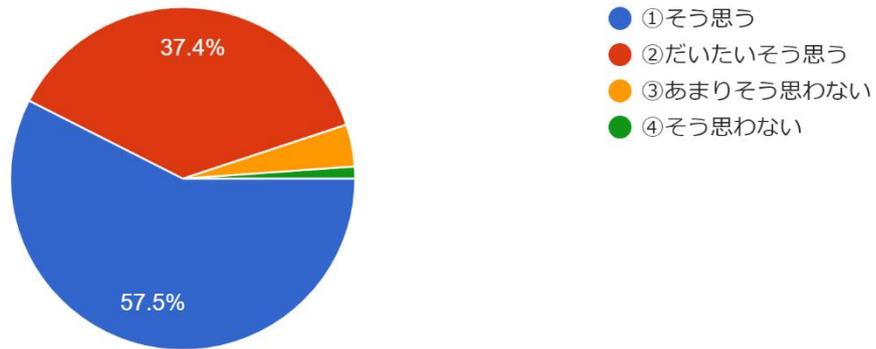


3. 先生にわからないことや心配なことを相談すると、よく聞いてくれる。  
353件の回答



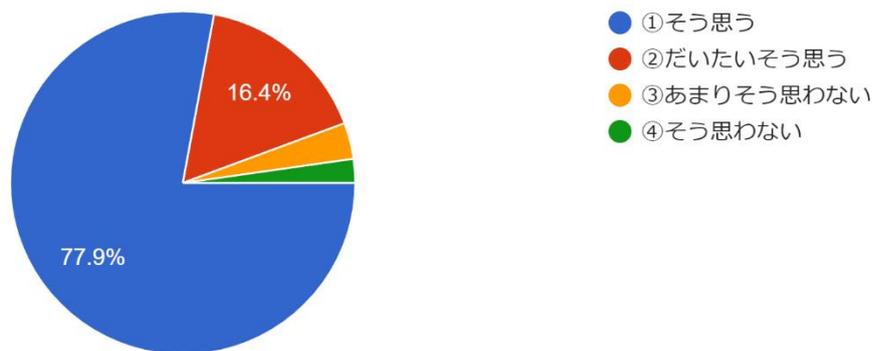
4. 授業は、友達と一緒に考えたり話し合ったりして、学習したことがよくわかる。

353 件の回答



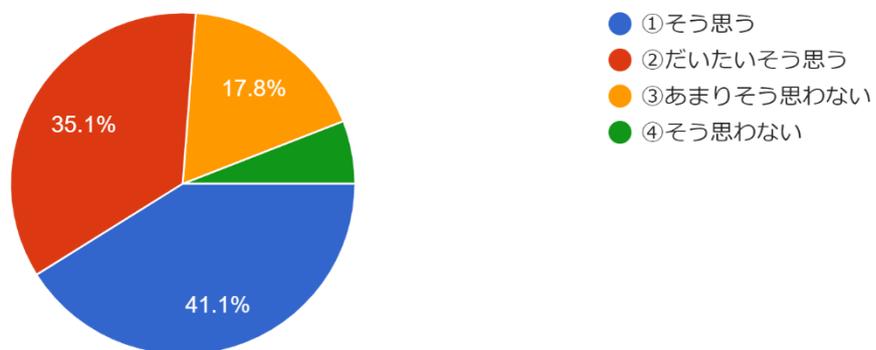
5. 体育は体をたくさん動かして活動し、運動することが楽しい。

353 件の回答



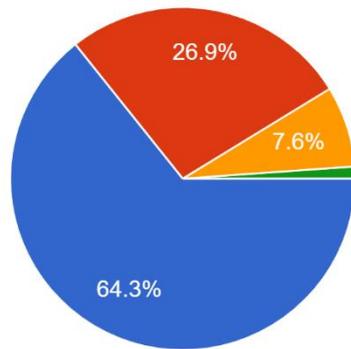
6. クラスではいじめや差別がなく、みんなが仲よく生活できている。

353 件の回答



7. ペア学級の友だちと協力して、仲よく活動できる。

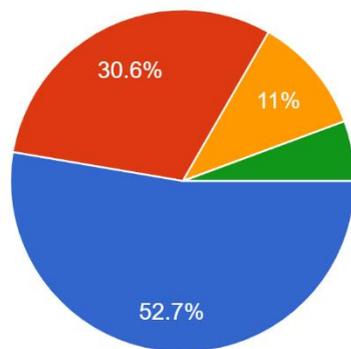
353 件の回答



- ①そう思う
- ②だいたいそう思う
- ③あまりそう思わない
- ④そう思わない

8. 自分たちが住んでいる地域のことについて学習することがある。

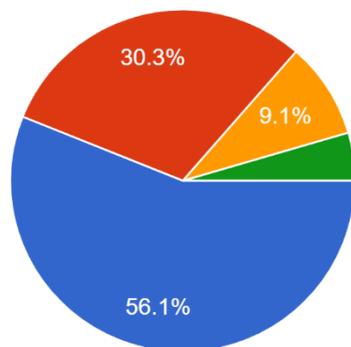
353 件の回答



- ①そう思う
- ②だいたいそう思う
- ③あまりそう思わない
- ④そう思わない

9. ボランティアの方や地域の方と一緒に学習したり、活動したりすることがある。

353 件の回答



- ①そう思う
- ②だいたいそう思う
- ③あまりそう思わない
- ④そう思わない

## <成果>

- ・「学校行事は楽しい」と答えた児童は、肯定的な答え（①②合わせて）が、昨年度とほぼ同じでおよそ97%の高評価となった。全校一斉の行事が再開され、行事が実施できたこと自体が大きかった点では昨年度と違うが、引き続き行事の主旨にある「子どもたちが主役」となるような指導ができたためと考えられる。
- ・「クラスが安心できる場であり、友だちと楽しく生活できている」と答えた児童は、①②合わせて93%ほどで、昨年度とほぼ変わらなかった。多くの児童が楽しい学校生活を送れている。
- ・「相談ごとに対する先生方の対応」については、①②合わせて92%ほどの児童が「よく聞いてくれる」と答え、昨年度と変わらなかった。引き続き先生方が日々丁寧に対応してくださっている様子が伺える。
- ・授業において「学習したことがよくわかる」と答えた児童は、①②合わせて昨年度91%に対し、95%と上昇した。「支え合う」「学び合う」を意識した成果である。
- ・「運動することが楽しい」の問いでは、肯定的な答えが94%で、昨年度92%を超える結果だった。さらに①の評価を見ると、昨年73%に対し、約78%と5%上昇しており、体育や体を動かす活動が好きな子どもたちがより好きに感じられるようになったことがわかる。職員アンケートで、「夢中になって体を動かす授業ができたか」の質問に対する肯定的な回答がかなり上昇した結果とつながっている。
- ・「地域のことについての学習」については、肯定的な答え（①②）が昨年度72%だったのが83%と大きく上昇した。総合的な学習の時間で地域素材を活用した取り組みが成果になっている。
- ・「ボランティアの方や地域の方と学習や活動ができたか」の問いでは、肯定的な答え（①②）が昨年度より2%上昇した86%となった。コロナ禍の制限緩和と、先生方の意識付けによる結果と考える。

## <課題>

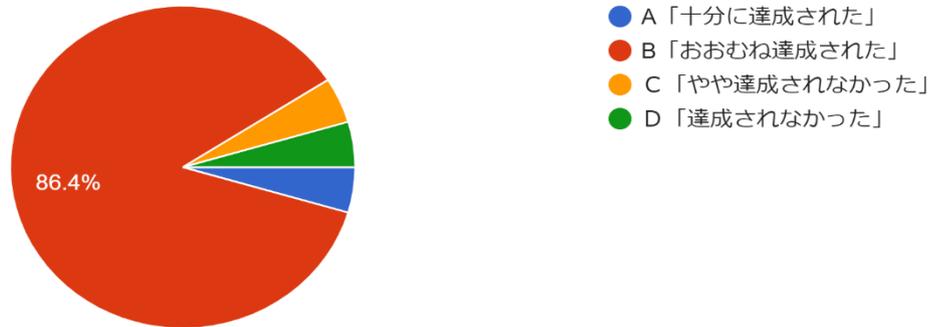
- ・「クラスが安心できる場であり、友だちと楽しく生活できている」「相談ごとに対する先生方の対応」の質問に対して肯定的な答えが92~93%だったが、それ以外の7%の児童に目を向けていく必要がある。
- ・授業に関して「学習したことがよくわかるか」という問いに対し、肯定的な答えは昨年度よりも上昇した反面、①だいたいそう思う の回答が2%ほど減少した点を見ていくと、徐々に分からないと感じている児童が増えてきているととらえることができる。友と関わること自体を目的とせず、それが、授業が分かるための手立てとなるような授業のありかたを考えていく必要があると思われる。
- ・「いじめや差別がなく仲良く生活できている」の質問への回答で、肯定的な答え（①②）が昨年度80%だったのに対して76%と減少した。細かく比較していくと、①44%→41%、②36%→35%、③13.4%→17.8%、④6%→6% となっており、クラスで仲良く生活できていないと感じ始めてきているのではないかと捉えることができる。さらに「③あまりそうは思わない」の児童の割合が増えているので、Q-U検査等の資料も活用しながら、安心できるクラスのルール作りや継続的な支援を検討していく必要がある。
- ・「ペア学級との交流」については、昨年度の肯定的な答えは94%に対して、今年度は91%と減少した。細かく見ていくと、①そう思う が、昨年度は71%に対して64%と減少しており、コロナ禍の制限がなくなり交流の回数が増えたのに減少しているということは、質問事項の文面にある「協力」「仲よく」という点が課題であると考えられる。

※質問内容が同じため、昨年度と比較しています。

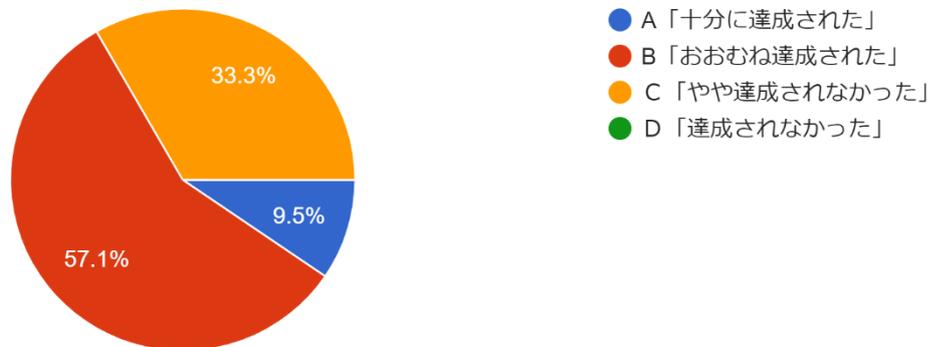
## 「教職員アンケート」集計結果

### 重点目標について

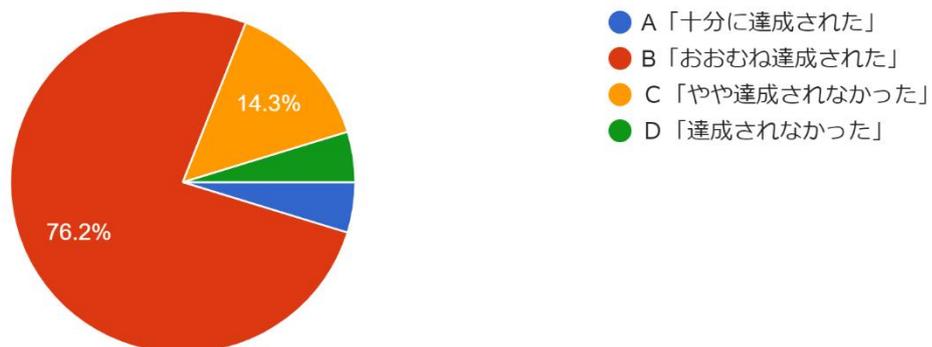
①分からない時に遠慮せず「教えて」と言えること...え、支えること を意識できたか。（支え合う）  
22件の回答



②互いの声に耳を傾け、聴き合うこと。教室に言葉が響き合うこと が意識できたか。（聴き合う）  
21件の回答



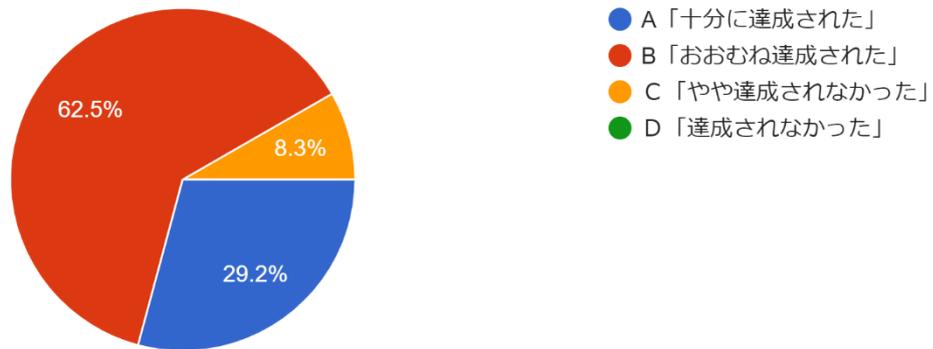
③友と協働し、探究的な学びが深まること を意識できたか。（学び合う）  
21件の回答



教育活動について

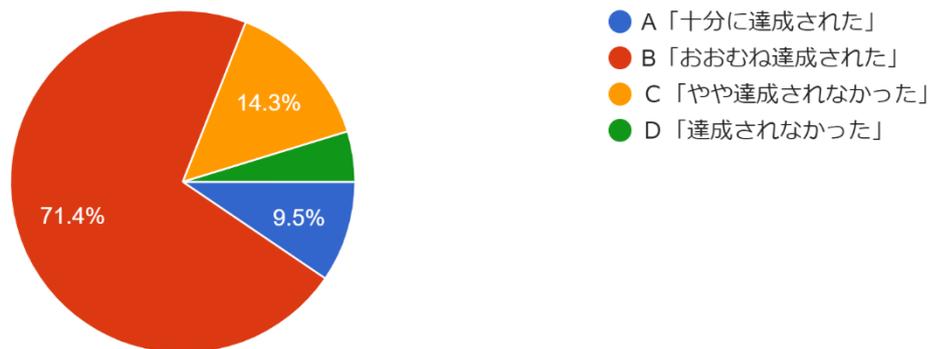
④ 子どもたちを主役とし、満足感・達成感が残る行事を実施することができたか（行事の充実）

24 件の回答



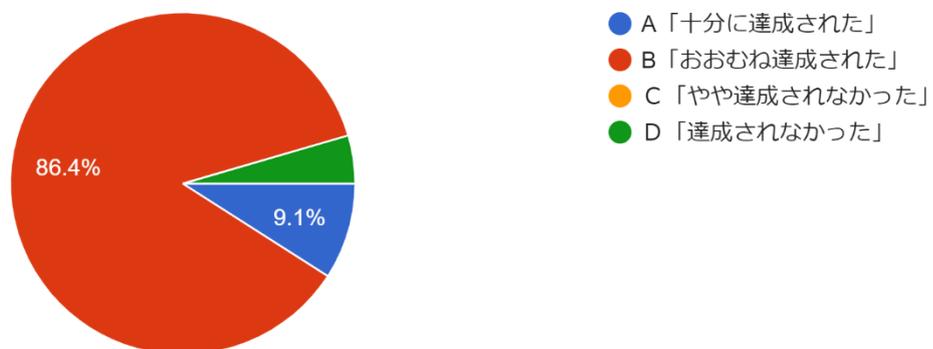
⑤ 掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用...（どの子ども安心して学べる教室環境づくり）

21 件の回答



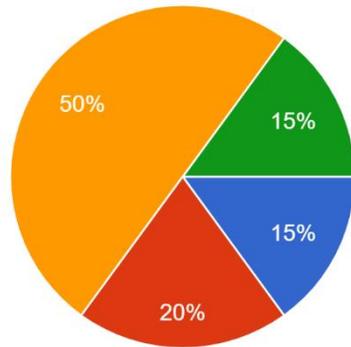
⑥ 教師は子どもの声に耳を傾けることができたか（協働的な学びの充実）

22 件の回答



⑦ ジャンプのある課題設定ができたか（協働的な学びの充実）

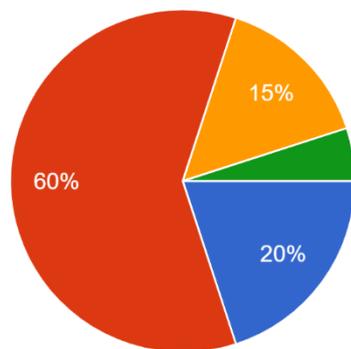
20件の回答



- A 「十分に達成された」
- B 「おおむね達成された」
- C 「やや達成されなかった」
- D 「達成されなかった」

⑧ 友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか（協働的な学びの充実）

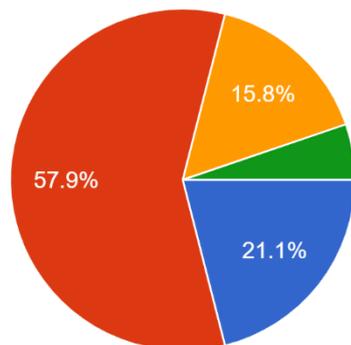
20件の回答



- A 「十分に達成された」
- B 「おおむね達成された」
- C 「やや達成されなかった」
- D 「達成されなかった」

⑨ 運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業ができたか（体育学習の充実）

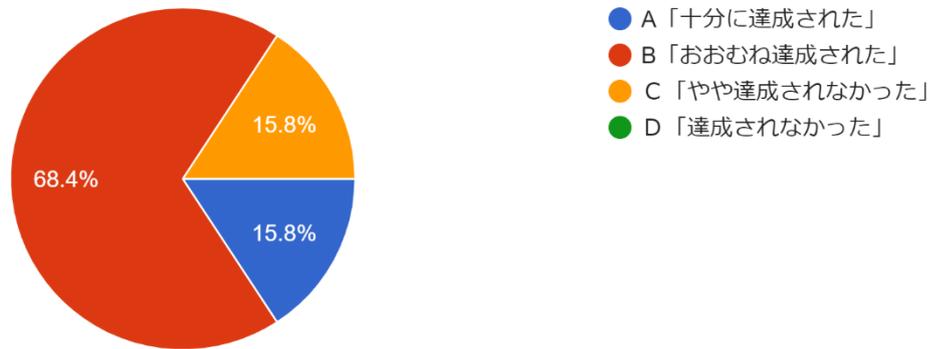
19件の回答



- A 「十分に達成された」
- B 「おおむね達成された」
- C 「やや達成されなかった」
- D 「達成されなかった」

⑩ 人権教育の授業改善を進め、いじめや差別のない学級とすることができたか  
(人権教育の充実)

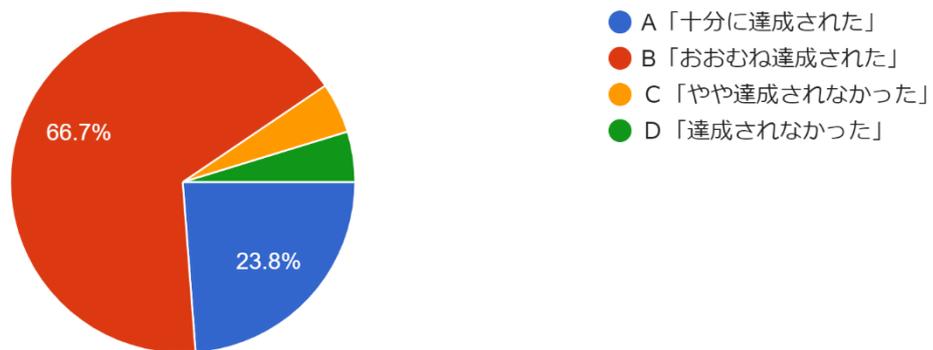
19 件の回答



⑪

ペア学級など異年齢との交流を通して、周りの人の...ことができたか (つながりを深める交流活動)

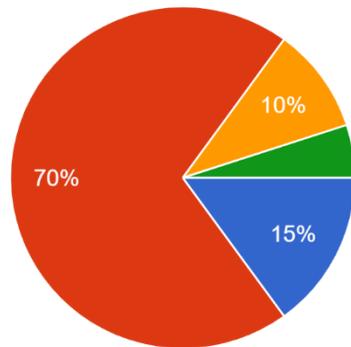
21 件の回答



⑫

生活科や総合的な学習の時間にふるさとで学びを深めることができたか（ふるさと学習の充実）

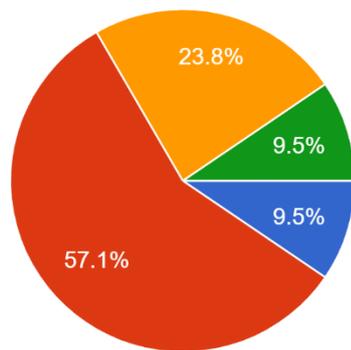
20件の回答



- A 「十分に達成された」
- B 「おおむね達成された」
- C 「やや達成されなかった」
- D 「達成されなかった」

⑬ ボランティア活動を積極的に進めることができたか（地域ボランティアの支援）

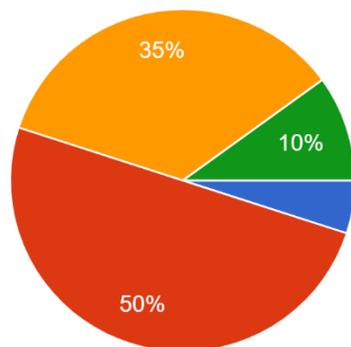
21件の回答



- A 「十分に達成された」
- B 「おおむね達成された」
- C 「やや達成されなかった」
- D 「達成されなかった」

⑭ 互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善することができたか（教職員の指導力向上）

20件の回答



- A 「十分に達成された」
- B 「おおむね達成された」
- C 「やや達成されなかった」
- D 「達成されなかった」

## 職員アンケート 成果と課題

※質問①～③（重点目標）、および⑬については昨年度と質問が異なるため、昨年度の回答と比較はしません。

### <成果>

- ・「支えることを意識できたか」という質問に対する肯定的な答え（AB 合わせて）が、90%の高評価となった。そのうち ②おおむね達成された が86%だったので、①十分に達成された に行くようにより意識を高めた。
- ・「行事の充実」については92%が肯定的な回答だった。昨年度は95%だったが、昨年度あったD評価が今年度はなかった。児童アンケートを見ると、行事への肯定的意見が97%と高評価なので、先生方が子どもたちに満足感や達成感が残るような行事になるように指導していたためである。
- ・「子供の声に耳を傾ける」については、肯定的な回答が昨年度と同じで95%だった。子供の声に耳を傾けながら授業をしたり指導や支援をしたりすることが継続されていることがわかる。
- ・「友と関わり合いながらペアやグループで・・・」について、肯定的な回答は昨年度と同じで75%だったが、A評価が15%上昇した。友との関わり合いを意識して取り組んでいる結果である。
- ・「友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか」の質問に対し、肯定的な評価は昨年度と同じ75%であった。そのうちA評価が5%から20%に上昇した。
- ・「夢中になって体を動かす授業ができたか」の質問に対する肯定的な回答が、昨年度より13%上昇した。児童アンケート⑤の上昇の理由となっている。
- ・「ふるさと学習の充実」については、肯定的な評価が昨年度55%だったのが85%と大きく上昇した。総合的な学習の時間で地域素材を活用した取り組みを意識して行っていることが分かるとともに、その成果が児童アンケートの⑧の上昇に関連している。

### <課題>

- ・「どの子ども安心して学べる学習環境づくり」については、昨年度の肯定的な回答は90%に対しておよそ81%と減少した。昨年度と教員集団が違うので比較はできないが、昨年度なかったD評価が今年度はあったので、教室掲示や発問の工夫、個別の指導計画の活用などを意識して取り組みたい。
- ・「ジャンプのある課題設定ができたか」について、肯定的な回答が昨年度は90%に対して70%と減少した。ジャンプのある課題についての意義や設定する意図などを職員間で共有する必要がある。
- ・「いじめや差別のない学級」について、昨年度の肯定的な評価がおよそ78%に対し84%と上昇している。
- ・「つながりを深める交流活動」（ペア・異年齢交流）については、肯定的な評価が昨年度83%が90%に上昇したのに対し、児童評価⑦は昨年度よりも評価が下がっている。児童アンケートの考察にあるように、交流の回数をふやすだけでなく、児童が「仲良く」「協力」といったことを意識できるような、具体的な目的をもった交流にすることが必要だと考えられる。コロナ禍でできなかった交流活動ができるようになってきたため、1学期は回数を増やすことに重きを置いたが、2学期以降は教育的な意図をもって取り組みたい。